



第196号

紅葉の香雪園（国指定名勝）



◇巻頭言◇

チ
エ
ン
ジ会長 橋田 恭一
(昭和39年卒)

十一月月上旬、アメリカ大統領選挙が行われ、バラク・オバマ上院議員の当選が決まった。「黒人初」という歴史的なリーダーをアメリカ国民に選択させたものは何であったのか。ブッシュ大統領の負の遺産を受け継いだマケイン候補が、金融危機の直撃を受け自滅した結果、地滑り的なオバマ氏の勝利になったと、識者は論評している。これには様々な視点から分析が出来ると思うが、それにしても四十七歳でしかも黒人というマイノリティーのオバマ氏の躍進には目を見張るものがあった。

彼が民主党で頭角を現したのは、四年前の党大会での類まれなる演説であったという。「白人でもない黒人でもない。キリスト教徒でもイスラム教徒でもない」。ひたすら「チェンジ」を訴え続けて一つのアメリカを強調し選挙民の心を驚つかみした。

新年一月には、第四十四代アメリカ合衆国大統領に就任して政策の実行に当たる。彼のアイデンティティは、アメリカのみならず世界の国々、なにかんづく我が国とどのような関係を築こうとしているのか、多くの人々に考えさせるに十分な発信力がある。直接、我々の暮らし向きにも影響してくるだけにオバマ氏のリーダーシップの発揮に期待するとともに目が離せない。

さて、もうひとつ私が注目したのは、オバマ氏が多用した「チェンジ」なる言葉である。チェンジは「変革する」、「変化する」、「交換する」などの意味であるが、合衆国民の中には国柄の変革を期待して彼を支持した人もいたであろう。ともあれ、夕陽会会長も六月二十一日に「チェンジ」した。「変革」などと大上段に見栄をはるつもりは毛頭ないが、

夕陽会報一九五号の会長就任挨拶で述べさせていただいた通り、これまで、先輩の皆様が営々と築かれた伝統を大切にしながら、新たな発想を加えて職務を遂行したいと考えている。

その際、会長自身の思考回路はかなりサビついてきているので、会員の皆様のアイデアを生かすことを第一義とした。心がけるべきは、いかに会員相互のコミュニケーションを密にして、合意形成していくかである。原則として前例踏襲を最小限に、一度は見直しをした上で施策を実行していきたいと考えている。

つまり、夕陽会が組織体として「チェンジ」していく際、大切なポイントはいくつあるか。①何をチェンジしていくか ②何のためにチェンジしていくか ③どのようにチェンジするか ④チェンジの成果をどう評価するか 常に、これらを意識して活動していきたいものである。

今、私は夕陽会の仕事など公的なものを除いて日常生活の見直しをしつつ、生活の在り様の「チェンジ」を図ろうと実践中である。とりあえず心身ともに丈夫で長持ちの「アンチエイジング」を目指している。何故なら、発想の豊かさや果敢な決断は、健康な心と体に依拠するからである。会員の皆様もこれまで意図的に、あるいは無意図的に自分自身を「チェンジ」してきたはずである。会員個々人の「チェンジ」が夕陽会を「チェンジ」する意識として結実していくのではなからうか。現役会員、OB会員それぞれ抱える課題に相違はあるが、今一度ご自分の生き方を見つめ直し、活力と潤いに満ちた生活者を目指して努力していきませんか。「創造し行動する夕陽会」の充実・発展を願って！

受章(賞)おめでとうございます

＊瑞宝双光章(春の叙勲)

村田 一夫 氏 昭和15年卒
小樽市松ヶ枝二の一五の一五
藤沢 末孝 氏 昭和16年卒
小樽市新光二の二七の六

＊法務大臣表彰

佐藤 任 氏 昭和16年I卒
函館市戸倉町一七の一三

＊北海道教育功績者表彰

酒井 充 氏 昭和46年卒
北斗市立上磯中学校

＊瑞宝双光章(秋の叙勲)

大場 光行 氏 昭和17年I卒
札幌市南区川沿一条四の九の三

高橋 橋進 氏 昭和22年卒
苫小牧市青葉町一の一八

三浦 晟 氏 昭和22年II卒
釧路町曙四の七の九

池沢 章 氏 昭和23年卒
仁木町北町一丁目一一九

辻田 昭 氏 昭和23年卒
広尾町錦通北二の三二の一六

川嶋 忠雄 氏 昭和24年卒
札幌市西区西野七条六の二の七

石川 井守 氏 昭和29年I卒
音更町宝来東町南一の一〇の一九

＊函館市文化賞

中村 薫 氏 昭和30年II卒
函館市西桔梗町七三三の四六

＊函館市文化団体協議会
白鳳章

国井 周明 氏 昭和40年I卒
函館市中島町二九の二六

＊函館市文化団体協議会
青麒麟章

葛西 広治 氏 昭和63年卒
函館市立北中学校



支部研修部主催の研修会

小樽支部 研修部長 五十嵐 幸
(平成元年卒 小樽市立稲穂小学校教諭)

日本海に面した小樽は、歴史と伝統のロマンの街・観光と漁業の街として多くの人々に親しまれています。近年、海産物や車の貿易でロシアの方々や、観光では台湾や韓国の方々が訪れることが多くなり、モダンなたたずまいに加えて国際的な街の装いも感じられるようになってきました。夕陽会小樽支部は、小・中学校教員を合わせて約九十人の会員を有し、各校で小樽の教育の中心となり実践を展開しています。そんな中、小樽支部の活動で、長く続けられている研修会のことをご紹介します。

毎年、年度当初、各支部でも行われているように各部の組織と計画づくりが小樽支部でも進められます。張り詰めた雰囲気の中で、確かな一歩を踏み出すその時というのは、何とも言えない感慨を覚えるものです。私は研修部の部長をさせていただくようになってからは、内容や研修会の具体場面を想像する緊張の場面でもあります。

研修部主催の一般研修会は、夏季と冬季の年二回、テーマを決めて開催しています。形態は、参加会員による実践発表会や実技講習会、講師を招いての講習会など、テーマによって工夫をしています。その甲斐あってか、一般会員や管理職会員合わせて、毎回二十人程が集います。研修会では、同じ大学に通っていたという同窓・団結意識と、立場を超えた教育者としての専門知識が集結し、今日的な

教育の諸問題や指導に関する実践など、活発な交流が行われます。その中で、各校の実態に合わせ実践に生かすようにしています。ちなみに最近行った内容は、
・「生徒指導に関わる現状の交流」
・「小樽市総合博物館の活用の方を探る」
・「あおばとプランに関わる取り組み」などです。

研修後には、厚生部と連携を図り、懇親会を行い、研修会で言い足りなかったことや同窓の仲間でもしか語れないことなど、それぞれの年代の視点で交流を行い、親睦を深めています。また、研修会の成果・課題については、庶務部が支部内の会報の中で、全会員に情報を伝えていきます。

研修部として、参加者の拡大や小樽中の連携など、研修会に関わる課題や続けることの難しさがあります。しかし、各部の会員との連携や現役会員・先輩会員に支えられながら行っているという、温かさを感じる活動でもあります。人と人との関わりが希薄になりつつある今日と言われているですが、この研修会を「創造し行動する夕陽会」の基盤とし、中身も拡大するよう努力して参りたいと思っています。



会務報告



幹事長
須藤 由司
(昭和52年卒)

《一般会務》

7・19 第1回本部事務局会議を開催する。(函館)

函館校地域連携講演会に多数の会員が参加する。(函館校)

26 道北ブロック教授対策講座(過年度卒対象)を開催する。(旭川・25)

8・2 道南ブロック教授対策講座(過年度卒対象)を開催する。(函館・3)

4・ 函館校主催教授対策講座(現役生対象)を支援する。(函館・6)

9・ 全国支部(北海道・本州合同)幹事長会議を開催する。(函館校)

9・ 本部役員・全国支部幹事長による夕陽記念館見学会を開催する。(函館校)

16 道央ブロック教授対策講座(過年度卒対象)を開催する。(苫小牧・17)

9・ 函館地区教授対策講座(過年度卒対象)を開催する。(函館)

6・ 釧路校同窓会鶴岡会渡島・函館支部懇親会に橋田会長が出席する。(函館)

11 会長・幹事長・副幹事長による打合せ会を行う。(函館)

25 本部会報夕陽第195号(創立90周年特集号)を発行する。(函館)

10・ 北海道教育大学5校同窓会会長・幹事長等会議に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(旭川・5)

11 会長・幹事長・副幹事長による打合せ会を行う。(函館)

7・ 各賞受賞者に祝意を表す。(函館)

3・ 秋の叙勲受章者に祝意を表す。(函館)

11 北海道教育功績者表彰受賞者に祝意を表す。(函館)

8・ 夕陽中央会議を開催する。(札幌)

9・ 第4代会長西村賢三郎氏(昭和4年卒)の葬儀に弔意を表す。(函館)

12 北海道教育大学教育支援基金授与式に尾島副会長が出席し、教育支援基金への協力に対して本間学長より感謝状が授与される。(札幌)

15 札幌校同窓会北師会渡島・函館支部懇親会に須藤幹事長が出席する。(函館)

28 同窓会並びに函館校の現状と課題等について杉浦副学長(函館校担当)と橋田会長・須藤幹事長が懇談する。(函館校)

28 旭川校同窓会六稜会渡島・函館支部懇親会に須藤幹事長が出席する。(函館)

12 《支部総会・懇親会・同期会・個展等》東京支部総会・懇親会に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(東京)

12 関東ブロック各支部の今後の在り方について東京支部幹事長と本部幹事長が懇談する。(東京)

8・ 2 ラグビー部創立40周年記念祝賀会に橋田会長が出席する。(函館)

24 夕陽指導主事等会総会・懇親会に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

9・ 昭和38年卒業「淑女の会」に祝意を表す。(函館)

7 函館校夕陽会員懇親会に橋田会長・須藤幹事長・土谷副幹事長が出席する。(函館)

11 昭和35年卒同期会に祝意を表す。(函館)

18 昭和34年卒同期会に祝意を表す。(函館)

19 夕陽指導主事等会研修会・懇親会に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

27 昭和24年卒同期会に祝意を表す。(札幌)

10・ 昭和30年卒同期会に祝意を表す。(函館)

7 昭和31年卒同期会に祝意を表す。(函館)

23 道北ブロック会議に橋田会長が出席する。(函館)

1 道北ブロック会議に橋田会長・中瀬副会長・土谷副幹事長が出席する。(函館)

15 道東ブロック会議に橋田会長・小笠原副幹事長が出席する。(中標津)

教育支援基金への協力に対して 北海道教育大学より感謝状

北海道教育大学は、平成十八年十二月、現職教員の資質向上や優れた教員の育成、地域に根ざし社会に貢献できる人材の育成を推進することを目的として、「北海道教育大学教育支援基金」を創設しました。その後、本学からの協力要請を受けた五キャンパス校(分校)同窓会は、それぞれ募金活動を始めました。本会では、平成十九年度総会において、五百万円の支援基金の募金を決定し、多くのOB・現役会員の協力を得て、平成二十年三月、その内の二百万円を二万五分として寄付いたしました。

このたび、平成二十年度「北海道教育大学教育支援基金」に係る奨学金授与式に先立ち、十一月十二日、本学本部において多額寄付者に対して、感謝状の贈呈がありました。本会からは会長代理として尾島梯介副会長が出席し、本間謙二学長から感謝状をいただきました。学長からは、本会に対して感謝を述べるとともに、今後とも本学にご支援いただきたいとの挨拶がありました。なお、感謝状は今後、夕陽記念館に展示いたします。



その後、奨学金授与式(函館校はテレビ会議システム)が行われ、本年度奨学生に奨学金が授与されました。函館校の対象者は、大学院生(現職教員)一名、学部学生六名です。(平成十九年度は大学院生のみ対象で三名)

本会としては、本年度も、会員の皆さんからいただいた支援基金を大学に寄付してまいります。まだご協力いただけない会員の皆様には、趣旨をご理解いただき、今後ご協力いただきまますようお願いいたします。

「北海道教育大学教育支援基金」への募金は本部事務局までご連絡ください。

絵画するー心の旅路

三箇 三郎 展

- 会期……平成二〇年十一月六日(土)～平成二二年三月二日(日)
- 会場……北海道立函館美術館(函館市五稜郭町)

このたび、本会会員、三箇三郎氏(昭和二年卒・第二師範四回)による道立函館美術館主催の特別展、「絵画するー心の旅路」が開催されています。この機会に、多くの会員や関係者の方々に参観いただきたく、ご案内申し上げます。



函教大ラグビー部創立四十周年

周年行事実行委員会委員長 小松 一 保
(昭和50年卒) 函館市立桔梗小学校長

函教大ラグビー部が創立され、今年で四十周年を迎えることができました。この間、夕陽会から数多くのご支援・ご指導を賜り、衷心よりお礼申し上げます。

振り返ると、昭和四十三年に、体育科の故浦田教授のご指導のもと、既に教職を退職された中山修一先生、大平洋先生そして今年度で教職を勇退される浦田正先生の諸先輩が中心となり、一つの楯円球を追いかけたのが函教大ラグビー部の創立と伺っております。しかし、実はそれ以前に函館工業高校で退職された稲田竹男先生、小学校長で退職された佐々木慎一先生、あるいは同じく小学校長の後、教育長を勤められた加藤弘先生をはじめ多くの先輩の方々が学生時代にラグビーに親しんでいたという素地があったようであります。

私が入学・入部した昭和四十六年も、部員が十五名に満たず、試合では陸上部員あるいは高校でラグビーの授業だけでも経験のある学生に応援していただいて、やつとメンバーが揃うといった中で全道ラグビー選手権や全道学生選手権、あるいは弘前大学医学部との交流試合に参加しておりました。そのため、創部当初は数年間、五輪精神そのものであり、大会には参加するも勝利とは縁遠いものでありました。

しかし、そのような数年を経て、先輩たちが勝つラグビーにこだわりを見せたことによって、練習そのものが大きく様

変わりをさせ、雨の日も雪の日も練習一筋となりました。そのような努力のかけがあつて、函館での大会はもとより、全道大学選手権あるいは全道ラグビー選手権においても、勝利を積み重ねることができるようになりました。そのような創部当初を考えると、四十年もの長きにわたってラグビー部が存続するとは、思いも寄らぬ嬉しい出来事であります。この思いは、私だけではなく、創部当初に籍を置いた諸先輩・部員にあつてはなおさらのこと感慨深いものがございます。

そんな変遷を経て、創立された函教大ラグビー部も、卒業生が多くなるとともに、自分たちのチームを作ろうという話が持ち上がり、昭和五十二年に函教大ラグビー部OBとしてチームを創立し、第一回現役対OBの交流戦を開催するとともに、OBチームとして、全道ラグビー選手権大会や函館ラグビー協会会長杯にも、道内あるいは本州から有志が集まって参加していたこともございました。しかし、それも時の流れとともに、OBチームが成り立たなくなってきたことは慚愧に堪えませんが、北海道ラグビー界に函教大ラグビー部OBチームが存在したという足跡はいつまでも残っていくものと自負しております。

先日、数名で酒を酌み交わしながら、この周年行事の企画・立案について話し合いを行いました。その中で、ラグビー

との出会い、仲間との出会いがいかに私たち一人一人を大きく成長させてくれたことか、今更ながら語り合いました。私にとつても、ラグビースピリッツ、ラグーマンとの出会いは、人として、教員として、いかに私を太らせてくれたことか、函教大ラグビー部に身を置いたればこそであり、こうした素晴らしい仲間とともにプレイができたこと、そして今でも先輩・仲間・後輩との交流が続いていることは、大きな喜びとするとところであります。その絆を深めさせていただいた函教大ラグビー部がこれまで四十年にわたり面々と引き継がれたことをお祝いしようということになり、平成二十年八月二日(土)に現役対OBの交流試合を午後から根崎ラグビー場で行い、夜はベルクラシック函館で祝賀会を開催し、併せて記念のネクタイピン、Tシャツ、記念誌を作成しようということになりました。

当日は、交流試合に現役十九名、OB二十七名が参加し、曇天の中、十三時三十分キックオフで試合が開始されました。OBチームにあつては、不惑をとうに過ぎた輩も多く昔のプレーをイメージしては体は動かないことを忘れ、悶々としながらプレーしておりましたが、それでも昔の仲間と一緒にプレーできる喜びは格別でありました。後半



でしたが、これもOBチームにとつては、恵みの雨となり、けが人もなく、二つのトライをすることもできました。結局、試合は、現役チームの先輩に対する思いやりを受けて三十一対十二で現役チームの勝利となりましたが、OBにとつては一矢を報いることのできた楽しいゲームとすることができました。

引き続き行われた祝賀会では、「夕陽会」の橋田会長を御来賓としてお招きし、各期の卒業生あるいは現役から学生時代の思い出話や近況報告などがあり、締めくくりとして部歌である「貴様と俺」を全員で斉唱し、あつという間の二時間でした。そのため、その後の二次会にもたくさんの先輩・後輩が参加し、歌って、踊って、語りあつて、大いに盛り上がりつつ祝賀会とすることができました。その二次会でもまだ物足りなさが残り、さらに現役・OB入り交じって三次会へ繰り出すほどの盛況でした。

昨今では地元函館はもとより、北海道さらには本州と、日本全国でラグビー部出身者が、それぞれの学校や立場で活躍しておりますことも、大きな喜びとするところであります。

夕陽会におかれましては、今後とも、函教大ラグビー部へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



創立九十周年記念事業

記念グッズ



「平成二十年度版
会員名簿」



「記念DVD」



「記念誌ビジュアル版」

創立90周年に集うー同期ー仲間たち

創立90周年記念祝賀会にあわせ、同期会が多数開催され、十月末までの実施報告が本部に入っております。これからも同期会等、開催されると思います。ぜひ、本部事務局へ連絡をお願いいたします。ささやかですが、御祝儀を贈らせていただきます。

昭和24年卒	昭和29年卒	昭和30年卒	昭和31年I卒	昭和32年卒	昭和33年II卒	昭和34年卒	昭和35年卒	昭和38年卒
昭和39年卒	昭和40年卒	昭和42年卒	昭和44年卒	昭和48年卒	昭和52年卒	昭和52年卒理科	昭和53年卒	昭和54年卒
昭和56年卒	昭和58年卒別科	平成10年卒	平成11年卒	平成12年卒	平成19年卒	ラグビー部	創立40周年	

夕陽会創立九十周年記念事業にかかわって

- 平成二十年度版会員名簿
- 記念DVD
- 記念誌ビジュアル版

が完成いたしました。今後会員の皆様には随時お届けします。それぞれの担当が長期間にわたって作成してまいりました。特に記念DVDは、夕陽会の歴史を刻んだものです。夕陽魂を感じさせます。



「夕陽会創立九十周年誌」について

本誌については、会員、関係者に配付いたしました。購入希望の方がいらっしゃいましたら、本部事務局の方で二千元で購入することができます。



空知支部だより

空知支部長 石川 井川 秀川 樹
(昭和46年卒 美唄市立東中学校長)

昨年度、支部長という大役を仰せつかり、二年目を迎えた今年度、支部役員の方々と力を合わせ、支部の活動が一步でも前進するよう、微力ではありますが尽力して参りました。私は支部長になる前、幹事長を四年間務めさせていただき、空知支部を支えてこられた先輩たちのご苦労や夕陽会に寄せる熱き思い、そして、夕陽の同窓意識を高めていくことの大切さを肌で感じる事ができました。

空知は十市十五町で構成され、美唄市以南を南空知、奈井江町以北を北空知と呼んでいます。顧みますと、空知では夕張・美唄・芦別・三笠・歌志内など、石炭の街が隆盛を極めた時代もありましたが、今、すべての炭鉱がなくなり、少子化とも相まって小規模校が増え、小中学校の統廃合が加速しています。かつて、空知管内の夕陽会員は、五百名を超え(内、管理職が百名余)、私が勤務していた夕張の地だけでも、夕陽の仲間が数十名いました。その当時、活躍された諸先輩たちにとって、「教育王国空知」を築いた、誇り高い時代でなかったかと思えます。

現在、空知支部は、義務教育会員九十二名(内、校長九名、教頭六名)、行政職員二名の合わせて九十四名ということで、全盛時代とは比べるべくもありません。また、私が教頭になった平成十年

には、校長一名、教頭四名という底の時代もありました。ですから、現在、管理職が十五名にまで復活してきたことは、万感せまるものがあります。

今年度の支部総会は、例年通り四月末に開催され、昨年度の業務報告・各部活動反省や今年度の活動計画さらに新役員について承認がなされました。本部からは、須藤幹事長にご出席いただき、函館校の様子、夕陽会の現状、夕陽記念館の改修工事、夕陽会創立九十周年記念事業等についてお話をさせていただきました。総会の後のOB会との交流を兼ねた新入・転入会員歓迎会は、三十二名が参加し、大いに懇親を深めました。

私たち夕陽会空知支部は、変貌の激しい時代を生き抜くために、『創造し行動する夕陽会』を行動指針として、①中堅・若手会員の組織化とその活動の支援②管理職等の人材発掘と養成③会員相互の研修活動の一層の活性化と会員の資質向上④「夕陽だより」の発行を通して、支部の情報を発信し、同窓意識の高揚を図るなどの取り組みを推進していきたく思っています。そして、「腹を割って相談できる夕陽会、愚痴をこぼせる夕陽会」を合い言葉に、先輩から後輩への声掛けを積極的にに行い、同窓の絆をより強固なものにしていきたくと考えています。



青森西北五支部だより

青森西北五支部長 高橋 橋 橋 宏 橋 彰
(昭和59年卒 板柳町立板柳南小学校教諭)

平成の大合併によって、当支部の市町村構成が一市七町七村から、二市五町に再構築されました。

過疎による地方公共団体の弱体化が、そのまま学校の統廃合に跳ね返ってきてこの何年かの間に、二十余りの学校が閉校しました。そのあたりをまともに受けて、支部内の小学校には二十代の教諭が片手で数えられる程しか居ません。そんなアゲンストの風を真正面から受けながら、少数精鋭で気持ちのいい仲間と共に支部を切り盛りしてきました。

年に一回の総会は開催しています。義理と人情に絆されてか、とても素敵な仲間が集まってくれています。ただし、昔話をして、軽く酔っぱらって、じゃあまた来年、というだけの流れであることは正直認めません。目下の一番の問題点は、OBの先輩方を含めて集まった方々に、「ああ来てよかった。」と思えるような満足感や成就感を提供できるかどうか、ということに尽きます。

教職関係者以外の会員も増えていますが、偶然同窓生の存在を確認できることもあります。ただ、ちよこつと昔話をするために、年会費と飲食代を徴収するとなると、今の現状のままではどうしても心苦しさが募ります。

その打開策として、常々考えていることがあります。竹下内閣時代の『ふるさ

と創生一億円』のように、『夕陽会支部創生うん十万円』とか銘打ってゴージャスに活動資金を配分して下さいませんか(笑)。もしもその夢が叶ったならば、当支部としては何よりまず吞ませることから始めたいと思います。初参加する際の雰囲気や会費に対しての敷居の高さを一気に下げてしまえる起爆剤になるものと信じています。そんなもの一時的のぎのバラマキとか、財源はどうするんだなどの、外野の声は一蹴して、是非ともマジに検討していただきたいと思っています。せめて道外支部だけでも。

ここで当支部の素敵な仲間を紹介したいと思います。会いたい顔がありましたら連絡をいただければ、総会に連れて行きますよ。

野上 四郎(一八卒・副支部長)
秋田 幸誠(一九卒・前支部長)
沢田 聖子(三五卒・前幹事長)
今 義秀(六〇卒・理科)
木村 修治(六一卒・ラグビー部)
佐々木康栄(二卒・準硬野球部)
今村 健児(三卒・数学科)
長谷川州子(三卒・国語科)
瀬谷 隆行(四卒・軟式野球会)
佐々木謙一(五卒・バレー部)
野宮 高陽(一四卒・ラグビー部)
お友達に当支部在住の方が居られましたら、支部総会への出席をお勧め下さい。お礼に高見盛のステッカーを進呈します。

母校創立当初を物語る



古 谷 全

母校創立第二十五周年記念式典は、学校当局及び二千教育の同窓の協力によって盛會裡に終えたのであるが、同窓會に於て更にこれが記念号刊行の計画を立て、過去を追憶するとともに母校及び同窓の将来の繁栄を希うということとはまことに事宜に達したと深く深く現幹事諸氏に敬意を表する次第である。母校当初を物語ることは私にとつて実に感慨無量のものがある。想起する綿々の情は到底短時間には述べつくせぬであらう。しかし所与の紙数に限りあり、又他の執筆者の記事もあらうからして、私は私の記憶に刻まれている和田校長を中心としての母校創立当初を物語ることにしたい。

およそ、一つの学校が生まざるにあたり、それぞれ創立の意義があるであらう。私はこれをその学校の創立意義とし、永遠にその学校における教養の大精神として継承せられるべきものと思つてゐる。しかし我が函館師範学校校程その創立意義の明かな学校は甚だ稀であらうと思ふ。実に函館師範学校の設立は、北海道拓殖の進捗に伴ふ必然的要求によるもので、その当時二万道民が如何に函館師範学校設立の實現に熱意を有してゐたかは、当時の文獻に徴すれば明らかである。多くの学校の創立には土地の要求や、時代の要求に依るものが多いであらうけれ

ども、国家的見地及び北方郷土の開拓上から至極せられた学舎は、明治初年の札幌農学校を除いては函館師範学校に比ぶべき学校はすくなくと言つても過言ではなからう。北海道教育史といつても、これは今後の人士によつて完成されねばならぬが、その光輝ある頁の一部は、札幌農学校に割かれねばならぬであらうが、その大正時代の頁を鮮明に彩るものは実に母校創立当初に於ける教育活動であつたのだ。拓殖教育はある意味に於ては、明治初年より行われていた。開拓使の初業に於てすべての本道の学校は、拓殖といふことを特に重要視されてゐた。札幌農学校の創立に於ても、小学伝習所や養学校等の設立に於ても、みな拓殖の見地からこれが創立を見たものである。しかしながらこの拓殖教育を意義的に明確に創始されたことを實際にみまます所なく、現せられし所こそ我等の母校であるのであつて、この意味に於て、母校の創立は、北海道教育史上永遠に輝く頁を占めるものと信ずる。今も母校の校室たるべきものに「土地開闢、人民蕃殖」の八字の双軸がある。これは前の開拓使書記官で当時宮内省出仕中の小牧島業氏の揮毫によるものであるが、和田校長が母校教育精神発端のため特に小牧氏を煩わしたものである。四大節又は母校創立記念日に

この双軸を講堂に掲げることとは、まことに意義深いことと思ふ。申すまでもなく、この八字は明治二年八月二十五日、明治天皇より東久世長官に賜はりたる御沙汰書の一節であり、本道民たるものの須臾も忘るべからざる聖旨である。函館師範といへば、拓殖教育を想起するが、拓殖教育といへば忽ち師父和田校長を思い出さずにはおれない。和田校長無くんば恐らく函館師範の拓殖教育も、今日までのように大なる影響を本道教育界に及ぼすに至つたとは思われぬ。和田校長は函館師範の初代創立者であるとともに、実は拓殖教育の創始者であるのである。前記東久世伯に賜はりし御沙汰書の聖旨に對し奉ること——これこそ和田校長の函館師範に於ける大努力の目標であつて、それは第一回生に対する校長の訓示中に明らかである。「拓殖教育」という語を、初めて意義的に用いたのも和田校長であつて、私への書信のなかにも和田校長は「拓殖教育の創始者である」と言われることを愉快に思ふ。旨のことが書かれてゐる。由来教育上に於ける、教育主義の名称は多くは欧米教育主義思潮の翻訳語にすぎず、何に教育、何に教育と言つても斯界の權威者が発明題目を唱へても、みな原書にそれが書かれてあるようであるが、拓殖教育なる語に至つては欧米の教育主義の何に據つたか、漢字の私には不明なのである。これはまったく和田校長の創意によるものである。かつて字報に内田博士の「ローネー」の訳語としての「開闢」なる一文を抜粋しているが、和田校長はそうした点まで検討してゐた。開闢が植民という意味をもつことはご承知の通りであるが、この「open Colonies」と結びつけて

も、拓殖教育の真意義にふれるものとは言えない。結局、拓殖教育なる標題は、フレールベルグが山道を歩いてゐたとき、ふと、*Welcher Weg*（幼穉園）——といふ名に考へついたように、和田校長の願望に、天来の響の如く思いだされたものである。数年前より、この拓殖教育なる語は、殆んど全道的に普及されてゐるが、それらの場合、はたして眞に和田校長の創定した意味に、この語を用いてゐるかどうかはしばらくおき、ともかくもこの拓殖教育という標題が、今回、全道的に重要視されてきて本道教育目的の核心となりつつあることは争われぬ。数年前こそ函館の折、雑誌北海道教育を和田先生に贈つたが、その中に道庁の諸閣僚に拓殖教育云々とあつたのをご覧になり、先生の微笑を禁じ得なかつたありさまを私は拝見した。和田校長の教育家としての一生涯中、最も力と熱を注いだのは、やっぱり函館師範であつた。勿論先生の教育事業は函館師範の創業ばかりではなく、あるいは沖繩県に於て、あるいは宮城県に於て、又晩年は郷里秋田県に於て力を尽くされるところ不朽の事業を成しとげられてゐるが、その中に於てもこの函館師範を通じて、北方郷土拓殖教育の創唱については、故先生の最も感慨深かりしところである。

しかし和田校長は拓殖教育なる語を創めたのみならず、むしろその真意義を、日々の教育の實際の上に現示されたのである。世には机上の名論卓説には長ずるが、實状は毫も価値なき空論を吐く者も少なくない。和田校長に於ては、名と實とが一枚になつてゐて、そこにいさゝかの間隙も認められぬのである。大正三年夏以来しばしば和田校長は文部當局にあるいは道庁當局に、あるいは師範に、また一般道民有志に、自己の抱懐する拓殖教育についてあるいは述懐し、あるいは主張したつてゐるが、これよりさき大正三年四月間校當時から、その特色ある拓殖教育の實際は着々行われてきたのである。

拓殖主義による教育の實際には多くの点に於て卓越した施設、経営が見られる。所謂師範タイプに生徒を固めてしまふことなく、どこまでも自由自主、独創的、進取的、企画的な人材を作することに全力を注いだのだ。和田校長の教育理想のうち、最高の一つは、この自由創造の人格を養成するといふ点にあつたことと、初期の生徒の評判に於てもこの点を第一にしてゐたようであつた。和田校長は深く、アーノルド、森有礼、福沢諭吉等の大教育家を理想人物として私淑されてゐた。又當時の思想界にはベルグソンの創造の哲学やデューイの社会的教育思想等がありこれらに傾倒してゐたので、自然創造とか自主とかいう点が重んぜられたものと思ふ。

拓殖教育はまた生徒の体験を尊重する教育である。それ故作業が最も多く行われた。私達の時代には作業がこの学校の正課かとも思われる程連日に行われた。校舎横の茫々たる草を刈り、土をけずつてはグラウンドの基礎をつくり、今の第一附属校舎の敷地あたりを耕しては南瓜を植え、校門までの道路をつくつたり、本校と舎との間の渡廊下の硝子窓を作つたり等して、来る日も来る日も作業のない日ではなかつた。夏休みから春校した時などは、至るところ夏草がはびこり、これを刈りとるための作業は夕陽没するまで行われた。

夕陽会報

第196号

思いだせばこれも懐かしいことである。時には校長自らで指揮したこともあった。あの広いグラウンドの土の中にも、庭の木にも創造の意義に燃ゆる職員と生徒の汗がにじんでいるのだ。

拓殖教育はまた一面、郷土愛の教育の提唱であった。近年郷土教育の勃興につれて、北海人はハイマイトロスであるなど論をする学者もあるが、和田校長はすでに二十数年前に於て、北方郷土の歴史的、地理的、研究に深く没入し、函館図書館等と深く連絡をとって北海道に関する研究調査をすすめ古書を蒐集し、ついには北海道室を創設したのである。昭和五年の頃文部省が各師範学校に郷土教育研究を命ずるに先立つこと十数年早くもこれを行っていたのは一大早卓見と言わねばならぬ。「御光の影」の連載、アイヌ語辞典の翻訳、道分節の曲話化、郷土的国漢資料の印刷、郷土的展覧会、通俗音楽会等みなその一つの表れである。さらに管内には熊、馬、牛、山羊、豚、鶏等を飼育せしめ、又養蜂等も試みる等植物的趣味を費うとともに、生徒の舎生活を満すことにも留意せられた。植林及びその手入れ、川狩、免狩、田植見学、農作物の八幡宮奉納等もみな意義ある行事である。

和田校長はまた深く職員と生徒との間の情義を重んじ、生徒を愛することまことに子の如くであった。我等は校長を「おどさん」と呼び限りなく尊敬したものだ。あの巨軀をもって、卓に立ち秋田流りを時々交えて述べた師父の格は今なお眼底に彷彿たるものがある。我等の同期生赤尾君の遺囑に記した校長、卒業送別会の時、興奮して激唱の辞をあたえた校長あゝ今はただ思い出の人とはな

てしまったのだ。「おどさん」は即ち尊敬すべき師父への愛称である。校長の腹下の職員の努力もまた並々ならぬものがあつたことは我等みなこれを認めるところである。新設、舊生の最初の両舎監、数字の吉田先生、函館の栗原（小林）先生、函館の宮森先生、博物の荒井先生、音楽の工藤先生、剣道の生田先生、農業の藤田先生等は最初の職員として印象深いものがある。大正四年以降には、加勢原、佐々田、藤木、山崎、前川、佐伯、伊藤等の各先生来任し中にも順、加勢の両先生は非常な奮闘をされたものである。原先生は現函館高等女子校長、加勢先生は現第二札幌中学校校長である。函館師範の建築が成つたのは、これらの先生方の献身的努力にあるものであつて、我々は永久に感謝の心を捧ぐべきものと思う。

教育的パラダイスを教育史上に求めるならば、これを我國としては、吉田松陰、松下村塾を想起しこれを東西にしてはアノルドのバプリクスタールに、またベスタロッチのイバーダンの学舎等に見るのであるが、私は大正、四五、六年度の函館師範の教育活動は、まったく一つの教育的パラダイスであつたと思うのである。勿論その間多少の欠点もあるにあつたろうが、おそらくあれだけの意気と熱をもって校長以下、丸となつた教育活動は近時稀に見るところと信じて疑わぬところである。思うに教育は中すまでもなく、人格と人格との交渉による。設備とか制度とかは単にそれを助ける意味を有するにすぎない。母校創立当初の教育的理想を表現させたのは、まったく和田校長の人格と、各職員の大努力とこれに感

応せる生徒一同の奮斗精神の結果に外ならぬ。天の時と地の利の外に、この人の相ありて、ここに北海道教育史上の不朽の建築が築かれたのである。

思うてここに生れば、私共母校の創立時代に育まれしとは実に大なる幸せであつたのである。しかし我々のみならず、かかる光輝ある遺産を有する母校に職を奉ずることも、またここに学び得ること、また大なる光榮であるのである。以上甚だ雑ながら、母校の創立当初のことどもの一端を述べたのであるが、ここに私は永遠に母校の偉業と同窓会発展を祈り、故和田校長以下各旧師の冥福を祈つて謹言することとする。

（故人、一回生、元本校教諭）

俺らの意気



高坂久喜

この間の母校創立二十五年度の祝典にでかけていつて最も嬉しく感じたことは、俺らの同窓はみんな若さに燃えて、張りきつた熱をもつていたことだった。ある評者が「函館師範には熱がある」と言っていたが、たしかに二十五年祝典は若さと熱の祝典だったと思う。若さと熱に加えて俺らの同窓はみんな昔ながらの素朴さで粉飾がなく、素直に、よく伸びていた。その卒業の年次の如何に拘わらずみんなよく伸びていた。一個の人間が、いつまでも若さを失わず、熱に燃え、その上素朴で、真直に、すくすく伸びることは、一つの偉大な芸術といいいい。と

同じように、一個の学校にも、そういうことが言われるわけだ。俺らの同窓はあくまで母校函館師範をして偉大な芸術の発祥地たらしめねばならない。そのためには俺らは三十や四十で、分別顔に身をやつしたり、早くも若朽の徒に甘んじたり、小成に安んずるなどとは大いに戒むべきだ。「四十、五十の鼻小僧、六十、七十の男盛り」これこそ真に俺らの意気でないならならぬ。俺らは、いつまでもヤングスピリットで、若鷹の如く雄々しく、鼻小僧の意気で邁もうではないか。

（故人、一回生、初代会長、二十五周年時の協賛会会長）

〈創立90周年記念特集〉

夕陽会報第一〇〇号から

夕陽会報第一〇〇号にも古谷 全氏（第一回卒業生、卒業証書第一号）の「母校創立当初を物語る」を見つけました。

貴重な当時の様子が文章の中から、うかがい知ることが出来ます。

夕陽会創立九十周年の歳でもあります。夕陽魂を受け継いでいきたいと感じて掲載いたしました。

大正七年（一九一八年）に、第一回卒業生が学窓を離れ、同年九月、同窓会創立に向けて、会合を重ね、会則が定められました。会則については、九十周年誌並びにビジュアル版に掲載されております。

（情宣部）

昭和49年6月25日

「6」

支部の歴史をふりかえって



夕陽檜山支部 九十年をかえりみて

天授の使命を肩にして
先輩諸氏の努力と情熱に敬意を表して

檜山支部長 青坂 榮廣
(昭和46年卒)

大正前期、鯨漁衰退と共に檜山の産業も衰退を余儀なくされる。北前船に代表される日本海航路から太平洋航路に流通の経路が変化し、産業の衰退にますます拍車がかかることとなる。だが、国の北海道開発政策や科学技術の進歩から、漁業と農業の里・檜山として独特の風土を培ってきました。

江戸・明治初期より存在した中心的な町村は別として、鯨ではない、開拓による「我が世の春」を夢見て、本州から多くの入植者が檜山内陸へと移り住むこととなります。

小作人、或いは牧夫として使われ、一生懸命土地を開墾し、契約以上に開墾した土地は自分の物とするというやり方で私有地を増やしました。しかしながら大部分は小作農として働き、戦後の農地解放で自立した農家となったのが多数であったことも事実です。

入植した人々の生活は困窮を極め、経済的に貧しいばかりではなく、衣食住に事欠いていたと言っても過言ではありません。にもかかわらず、彼らの偉かったことは、子弟の教育に労を惜しまなかったことです。

明治後期より多くの学校が誕生したのはその証でもあります。

大正七年から母校では毎年卒業生を全

国各地に送り出すこととなります。

当時の檜山の人々の生活の状況は？

江差・大野間バス運行開始、大正九年国鉄瀬棚線国縫開通昭和七年、江差線木古内開通は昭和十一年。電気の完全普及は昭和三十年代。米を難なく栽培できるようになったのは、戦後。『米の飯は盆か正月しか食えなかった』というのが、昭和三十年以前の庶民の生活でありました。国づくり・人づくりの理想に燃えて全国へ散らばった先輩諸氏が、精神的、肉体的にいかに苦勞をして、教育の営みの場を作り出したのか、想像に難くありません。

大正から昭和初期にかけて、活躍した先輩諸氏は残念ながら資料不足から探し出すことはできませんでしたが江差小学校開校百二十周年記念誌の歴代校長に、第十五代校長として昭和十七年から二十一年まで豊規矩郎（大八卒）氏が在任していたことが分かりました。氏は、前任が乙部小であり檜山南部で活躍したであろう事が予想されます。

『檜山校長会史』によると、昭和二十二年には八十六校が存在し、三十五人の校長が夕陽会員であったことが分かります。そのうちの先輩では、大正八年卒の穴戸誠氏（江差小）、板谷氏（今金小）の名前が見られます。

檜山の学校数は昭和三十八年、百五校とピークを迎えますがその後減少し、現在は四十七校となりました。職員数も半減、児童数に至っては三分の一という大きな変化を遂げています。

ここで、私に関わった夕陽会員について述べ会員の活躍を確かめます。

昭和三十年江差小入学。校長は岩沢氏（大十一卒、昭四十九年勲五等瑞宝章受章）、その後高橋良治氏（昭三卒、昭五十三勲五等双光旭日章受章）でした。

金森晃氏（昭三十一卒）に三年間担任されました。昭和三十六年江差中入学。

校長は中川留三郎氏（昭五卒、昭五十三勲五等瑞宝章受章）。昭和三十三年江差高校入学、歴史の先生、宮下正司氏（昭十一卒、昭和五十四年道文化財保護功労賞受賞）は当時から有名でした。昭和四十二年母校入学、四十六年卒業。

東京で三年半修行をし、昭和四十九年十月北檜山町冷水小へ期限付きで赴任。

近藤昌蔵校長（昭十九卒）との出会い。私は初めて複式授業を経験。校長の奥さんが簡易給食を手伝い、大きな鍋でミルクをとかしていた光景や、校長が会議や教育委員会へ出かける時五十ccのバイクだったことを思い出します。

昭和五十二年、晴れて北海道の教員として乙部町栄浜小元和分校に赴任。住居は本校の校舎に繋がっていた旧校長宅での始まり。青幹彦校長（昭二十五卒）との出会い。私の仲人をお願いするなど個人的に大変お世話になった方です。折に触れ校長宅におじゃまし、ごちそうになりました。先生は日明中、上ノ国中と歴任、平成元年定年退職、その後平成三年から四年間奥尻町の教育長を勤め上げました。文字通り檜山の教育に全身全霊を捧げた人です。昭和六十三年、檜山校長

会長として檜山校長会史に「過去の歴史に学び未来の栄光を」という巻頭言を残しています。平成十二年勲四等双光旭日章を受章。

栄浜では本校勤務も含め十年間通りました。校舎が新築。玄関のモニュメントは地元出身の中川真一郎氏（昭四十卒、平成三年現代工芸展会長賞受賞、現在本部副会長）製作のものです。小笠原胖校長（昭二十九卒）とも出会うことができました。大変自己に厳しい礼儀正しい人でありました。

昭和六十二年、江差小へ転勤。六年間に三人の校長、赤泊昭吉氏（昭二十三卒）、植村耕三氏（昭三十卒）、山田富雄氏（昭二十八卒）の世話になりました。

植村校長は昭和五十二年乙部町富岡小中の校長として着任した人。実は、元和分校にいたときに町複式連盟で何度も顔を合わせていた先生でありました。

先生は全道の複式研究会で社会科の授業を公開するに当たり、当時脚光を浴びていた同内容指導ではなく、学年別指導を実践発表すると主張していたことを覚えています。複式の研究大会のため胆振より転勤してきたと当時は思っていました。昭和五十六年植村耕三校長を大会長として第三十回全道へき地複式教育研究大会が成功裏に終了したことは言うまでもありません。

この大会の研究部長が島歌第二小学校黒田敏明先生（昭三十四卒）であったのも何かの縁だったと思われます。

植村校長は平成三年道教育功績者表彰受賞。第十三代檜山校長会長。

山田校長は私を教頭に推薦してくれた忘れられない恩人です。南が丘、江差中、そして江差小の三校を歴任する珍しい記録者でもあります。日本人学校で活躍さ

れ、インドネシアでの貴重な実践を伝えてくれました。退職後も南米に渡り日本語の普及に奔走、現在でも年に一度はインドネシアへボランティアに出かけるなど精力的に活動をしています。第十五代檜山校長会長。

平成五年、瀬棚町馬場川小学校へ教頭として赴任。校長は黒田敏明氏でした(前述)。先生は瀬棚町教育研究所の副所長として具体的な業務を推進していました。瀬棚町の小・中・高一貫教育は管内だけではなく全道的にも先進的と言える実践でした。

先生は地域の発展にも大きな情熱を持ち、体験的な学習で栽培した力ボチャを、子どもの手紙を添えて出荷し、東京の消費者との交流を生み出し、子どもに大きな夢と自信を与えた実践者でありました。平成八年、大成町久遠小学校へ転任。木村洸大校長(昭四十卒)の指導を受け平成十一年校長として採用されました。人情に厚い先生でした。

平成十一年北檜山町二股小学校へ着任。歴代校長で夕陽会員であった人は私を含め十人。古い順に二人挙げると、第九代佐藤准三氏(大十二年卒)第十代杉本省吾氏(昭三卒)です。

杉本校長に関する興味深いエピソードがありますので概略を紹介します。

昭和二十一年十一月、校舎新築が決定。通知のため村長来校。学校林の払い下げが決定し見返りとしてK氏宅裏山七町歩の笹刈り植林を行う。部落の出役各戸五人、のべ二百五十人、述べ日数五十日に及ぶ。「全努力、部落民の出役にして苦心いわんかたなし・・・」

昭和二十二年三月校舎腐朽甚だしく倒壊する。

昭和二十三年九月、新校舎落成。

(二俣小学校休校記念誌より)

七十周年記念誌によると学校林払い下げの陳情をするのに汽車に乗り、見つかると没収されるであろう手みやげを持ってようやく許可を得たようです。苦勞をして木材を校庭に積み上げたまでではないが、現金がないので、校舎建築に「待つた」がかかったそうです。役場に対する不信任は頂点に達しますが、校舎が壊れては役場としても建築作業に着手せざるを得なくなりそうです。

事情を知っている古老は、杉本校長が何かしたのだらうと思っているようです。因みに、大工に払われた賃金はお米であつたそうです。

休校記念誌にわざわざ、二十二年の三月に校舎倒壊の記事がある理由が分かってもらえるでしょう。

平成十四年秋、開校百周年・二俣会期百六年祝賀会挙行するも、平成十七年三月、閉校。

平成十五年朝日小学校へ転任。

歴代校長を見ると、私が小学生の頃の校長岩沢氏をはじめ戦後の夕陽会を築きあげた西里正一校長(昭九卒)がいました。更に、栄浜小学校在勤時代同じ乙部町にいて町教研会長をしていた池田久義校長(昭二十三卒)、町内で夕陽会の懇親会を開き、私のような若輩者を、檜山教育局長の安達整氏(昭二十二卒)や福島俊也氏(昭二十八卒)に紹介し面会の機会を作ってくれた鈴木茂校長(昭二十五卒)がいてとても懐かしかったです。当時、福島局長が元和分校を訪ねてくださり大変驚いたことを覚えています。昭和四十六年十一月に発行された会報九十四号に「卒業二十五五年を迎えるに当たって」という題で安達氏が書いた文の一部分を紹介します。「夜の函館山 霧の

走る山頂から夢幻にけぶる函館の街並みを見下ろし、感たんしばし・・・この感激を少しでも同期に・・・檜山、長田」という文から、夕陽のつながりが感じられます。長田雄太郎校長(昭二十二年卒)は昭和四十四年から四年間江差町南が丘小学校、その後江差小学校七周年歴任された方で、檜山校長会第六代会長でもあります。

話を戻しまして、歴代校長の宮腰屋世校長(昭三十卒)は、前任の二股の校長でもあり親近感を覚えました。

総合的学習で逆川公園の植物の観察では、草花の名前に大変詳しい板谷等氏(昭二十二卒)の世話になりました。先生はかつて、朝日の学校で教鞭を執っていた方でもありつながりの深さを感じました。

また、「めぐる青柳 山 うるわしく」で始まる校歌の詩は、母校大学教授林喬木先生のものであることも夕陽のつながりを感じさせられることです。

残念ながら、朝日小学校は平成十九年三月をもって閉校となります。

平成十九年、朝日、日明、水堀の三校が統合して江差北小学校となった本校に転任しました。

大正時代に三校が、中崎野に集い、運動会をしたり、昭和初期にはやはり三校生徒が集まってウサギ狩りをしたりして統合の縁があつたのではないかと感じています。

ウサギ狩りに因んだ話をします。日明の歴代校長で三浦慶次郎氏(大十二卒、第十四代校長)が日明の百年記念誌に寄せた文の一部分です。「軍用兎の飼育も奨励され、一般家庭でも銃後のつとめと盛んに飼育したものでした。満州や北支にいる兵士の防寒具になると思えば当然の事です。学校でも校長住宅の裏の小屋

で十数頭飼い・・・」

この先生が寄せた文に次のような文もあります。「その頃の早期によく特攻隊員が最後の出撃に際して、国民に、そして郷里の父母にもしかしたら届くかの思いをこめて、隊長に出陣の挨拶をしているのが放送されました。或る早朝もその悲壮なる若者の言葉を聞いていましたら、それが偶然にも私の教え子の出発でした。江差出身の彼は大学を卒業し、予備空軍将校として部下と共に南の海に散ったのです。」先生が取り上げた人は富澤保則校長(昭三十三卒。平成八年瀬棚小定退)の兄でないかと思うのです。又逆に、南の海から奇跡の生還をした上元敬紀校長(昭十七卒、第八代檜山校長会長)の話が思い出されたりするのです。

話が飛びました。日明の歴代校長は三十二代を持って終わります。そのうち夕陽会員は十三人、一番古い校長は板谷馨氏(大正卒、第十二代)でした。

水堀小学校の歴代校長は第二十五代を持って終わります。その内の会員は十人、一番の先輩は三階源太郎校長(大十二卒、第五代)です。私と関わりのあつた校長として赤泊慎児校長(昭四十卒、第二十二代檜山校長会長)がいます。また、桐花寮で同じ釜の飯を食った阿部武夫校長(昭四十九卒)もいます。

最後に、私が教育大学に進むことになったいきさつを述べ終わりとします。江差高校に進学しサッカーと出会いました。顧問は日体大卒業のT氏。氏は経済的に貧しくてもサッカーを続けることのできる教育大学を薦めてくれたのです。T氏の恩師は夕陽会顧問細田辰男氏。たつた事が最近分かりました。

T氏が永住を決め、家を建てた地域にある学校で、今私は退職します。

前納会費納入会員名簿追加分

寺嶋 文憲 札幌 昭45 金谷 誠一 八戸 昭46

(平成二十年十二月一日現在)

夕陽会員計報

溝口 秋好氏 昭6	20・2・28	平埜 昭太郎氏 昭22	20・10・8
札幌市手稲区新発寒4条4の5の6	敬子氏	小樽市梅ヶ枝町11の5	智恵氏
石橋 昂一氏 昭15	20・5・26	小田島 滋氏 昭26	20・10・17
青森県上北郡野辺地町石神裏15の9	敏子氏	函館市富岡町1の21の5	淑子氏
進藤 盛夫氏 昭19	20・7・14	小山内英雄氏 昭31	20・10・30
札幌市手稲区前田10条20の11の1	勝美氏	七飯町本町3の5の36	順子氏
奈良岡 邦啓氏 昭30	20・8・17	青山 公雄氏 昭16	20・11・2
函館市東山3の19の1	弥生氏	札幌市南区藤野3条11の10の11の313	栄子氏
大畑 慶一氏 昭35	20・9・1	佐藤 新一氏 昭20	20・11・5
せたな町北檜山区徳島25の47の52	眞樹子氏	札幌市手稲区新発寒7条5の1の21	カツ氏
深澤 剛氏 昭8	20・9・3	田中 市郎氏 昭10	20・11・6
函館市杉並町13の3	チヨ子氏	函館市昭和1の11の27	駒子氏
川村 侃氏 昭28	20・9・16	西村賢三郎氏 昭4	20・11・6
長万部町長高砂町426	昭子氏	函館市花園町40の13	鴻氏
原 栄氏 昭22	20・9・26	福井 正壽氏 昭34	20・11・11
北見市春光町4の9の7	貞子氏	音更町木野東通5の5	和子
加茂 徳郎氏 昭30	20・9・28	小山 勲氏 昭11	20・11・13
函館市上野町14の6	和子氏	函館市北美原3の2の6	佑一氏
長岡 稔博氏 昭30	20・10・4	横浜 良克氏 昭3年II	20・11・22
函館市山の手3の54の23	トヨ子氏	札幌市北区北25条西14の4の10	貞子

(平成二十年十二月一日現在)

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ
の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 熊谷 光洋 (昭和50年卒)

編集後記

◆会報一九六号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、『香雪園』の風景を捉えてみました。香雪園は、道内唯一の国指定の名勝庭園(平成十三年指定)であります。郷土の素封家である岩船峯次郎氏が私財を投じて築いたもので、旧岩船氏庭園とも言われています。香雪園の名は函館を訪れていた当時の知恩院貫主によつて命名されたもので、雪の中に梅香る園」という意味が込められています。

◆夕陽会創立九十周年の記念事業として、九十周年記念誌のビジュアル版とDVDが完成しました。ぜひ、じっくりご覧ください。

◆会報などの資料を整理しておりますが、会報一〇〇号に、第一回卒業生の古谷 全氏の「母校創立当初を物語る」を見つけました。夕陽会創立九十周年の歳でもありますので、会報に掲載してみました。当時の様子を感じ取ることができると幸いです。

(情宣部長 伊勢 昭記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(01338) 46-2235

夕陽会専用(01338) 34-5520

FAX番号(01338) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)